

令和8年度

第1回 ひと まち がっこう
～学校説明会～

令和8年6月

横浜市立恩田小学校



学校づくりのビジョン

「子どもを育てる」学校から 「子どもが育つ」学校に

子どもたちが安心して自己発揮できる学校を
教職員、家庭、地域の方、みんなで創っていききたい。

一人ひとりの子どもを徹底的に大切に、教職員が子どもたちの伴走者になりたい。

「この人に伴走してもらいたい」と思ってもらえるような教職員でありたいと思います。

そのために意識したい5つの視点

- 学ぶことのできる学校
- 個性を発揮することのできる学校
- 笑顔が絶えることのない学校
- 安全で安心な学校
- また明日も来たいと思える学校



令和8年度

中期学校経営方針

おもいやり　すすんで行動
だれとでも協力　恩田の子



恩田小の目指す子どもの姿

徳

○自ら正しい判断を行い、他者の立場や気持ちを思いやり、尊重しあって生活する子

体

○心身の健康に関心を持ち、自ら進んで運動を継続的に行い、心身ともにたくましく生きる子

公

○自分の役割やはたらくことの意義を理解し、地域や社会のために他者と協働しながら課題解決にむけて取り組む子

知

○自ら問題を発見し、課題解決に向けて主体的に考え、身に付けた知識や技能を生活に生かし、はたらかせる子

自ら学び ともに豊かな
生活を創り出す子ども

おもいやり すすんで行動
だれとでも協力 恩田の子

開

○自他の違いを受け止め、ともに生きる力を育み、グローバルな視野をもって持続可能な社会の実現に向けて行動する子

学校教育目標

ESDを基盤とした資質・能力の育成

生きてはたらく知

全体的な傾向（昨年度までの横浜市学力・学習状況調査の結果より）

- 学力・学習意識・生活意識ともに、ここ数年で全体的に向上が見られる。学力については、市平均を上回る学年も増えている。学習の基礎・基本を丁寧に指導してきた成果と言えるのではないか。一方で、生活・学習意識も若干向上していると言えるものの、まだ市の平均を下回っている学年が多い。



それを受けて、

今年度の取組について

- 子どもたちの意欲を高める課題設定や学ぶ楽しさを味わえる授業づくり
- 他者との伝え合いを大切にした学習活動の工夫
- スタートカリキュラムの恩田の子どもたちの実態に合わせた改善
- 系統性を考えたプログラミング学習の実施
- 外国語（英語）を活用し、コミュニケーションを図る資質・能力の育成
- 国語科・生活科・『横浜の時間』の充実
- 開校40周年記念に向けた、子どもたちが主体となった取組

健やかな体

健やかな体をつくるために

【具体的取組】

①生活リズムを整える(バランスのよい食事・適度な運動・睡眠)

- 給食を通して、食の大切さを理解し、バランスのとれた食生活について理解する。
- 十分な睡眠時間を確保するよう努める。

②運動の持続性(運動機会の確保)

- 年間を通して運動に親しめるように努めていく。
- しっぽとりやなわとび等、委員会活動を主体として、休み時間に運動のきっかけを作り、楽しみながら体力の向上を図る。

③自分事として事柄を考える

- 保健体育の授業を通して、保健的な知識を学び、実生活で活用できるように自分事として事柄を考える学習に取り組む。

いじめへの対応

「いじめ防止基本方針」に基づいた予知予見、見極めを組織的で迅速な対応をすすめていきます。



【重点目標】

- ①未然防止のための効果的な環境づくり
- ②継続的な情報収集と共有
- ③いじめに対する毅然とした対応

特別支援教育

個に応じた指導や学習、心の支援、組織的対応など一人ひとりを大切にした特別支援教育をすすめています。



【重点目標】

- ① 児童理解の充実
- ② 安心して学習できる学習環境づくり, 学習支援の充実
- ③ 学校全体での組織的な取組と関わり

【特別支援教育の充実として】

- ・全教科での指導内容や指導の工夫。
- ・個に応じた指導の視点から児童理解の充実と合理的配慮の理解。
- ・コンサルテーションや関係機関との連携による児童指導の充実。

豊かな心

「誰もが」「安心して」「豊かに」

*【豊かな心の育成】

○自尊感情 自己有用感の醸成

○規範意識・礼儀・豊かな感性

○「特別の教科 道徳」を要とした、教育活動全体を通じた道徳教育

【具体的取組】

* ①「道徳の時間」の充実

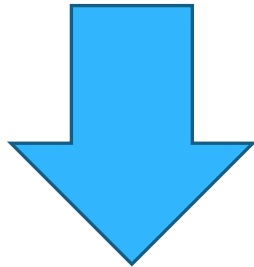
* 道徳の時間を要とした道徳教育の推進と、その時間の在り方の学び
* を行う。

* ②「身近な人との関わりを重視した活動」の充実

* 他学年や地域の人など、身近な人との関わりを重視した学習活動を
* 展開する。

児童指導・児童理解

児童指導を通して、安心・安全な環境づくりをめざします。



恩田小 学校生活のきまり
YPプログラムの活用

【重点目標】

- ①児童への確かな見取りと迅速な支援
- ②児童の規範意識の醸成

SDGsに向けて

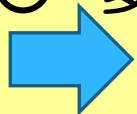
○ 『横浜の時間』・生活科の学習の充実

- ・ 地域のよさを生かした学習活動の展開
- ・ 児童の主体性を大切にした探究的活動の展開
- ・ 他学年や地域の方など、身近な人との関わりをもった学習活動の展開

○ SDGs とつなげた委員会活動の展開

- ・ 5・6年生を中心にしたSDGsへの理解
- ・ SDGsの目標に向かって展開する委員会活動
- ・ 校内への、SDGsカードの掲示による児童への働きかけ

○ 多様性の尊重



- ★持続可能な社会の構築に対する、意識の向上
- ★「他者と協働する態度」「つながりを尊重する態度」の育成



地域連携

【地域の人材の教育活動への参画】

★職員や保護者の力を生かした連携

- ・身近な人材に目を向け、活用できる力を再発見する。

★「つなげ方」の工夫による地域人材との連携

- ・「手紙」「写真」「動画」など、教師が仲介役となり地域の人材とつながる方法を工夫する。

【幼保小中高の連携】

★ナザレ幼稚園との連携

★奈良中・桂小・奈良小・青葉総合高校との連携